

奈良学園大学保健医療学部作業療法学専攻

評価・治療チェックリスト

(クリニカル・クラークシップ CCS チェックリスト)

—精神科領域—

Ver. 1.0

臨床実習施設： _____

臨床教育者（CE）氏名： _____

実習種別： 作業療法評価実習 ・ 総合臨床実習 I ・ 総合臨床実習 II

実習期間： 年 月 日～ 年 月 日

学生氏名： _____

評価・治療（クリニカル・クラークシップ [CCS]）チェックリストには、実際の作業療法を学ぶための、知識・技能・態度（課題）単位が示されています。どこまで経験しているか、何を経験するべきかを学生と臨床教育者（clinical educator：CE）とが共有するために用います。次頁以降の項目は養成校として学生に経験してほしいことを列挙してあります。作業療法士として必要なスキルすべてを網羅できているわけではありません。追加が必要とされる具体的事項は空欄に加筆の上、ご活用をお願いいたします。

【クリニカル・クラークシップチェックリストの記入方法】

このチェックリストは、CE が見学と解説、或いは模倣の機会を学生に提供し、それを学生がどう理解したか CE に報告させて、学生がその意味を考えたり、疑問を持ったり、質問するために記入します。

その日の終わりに学生と CE が一緒に記入するか、学生が記入したものを CE が確認して、CE によるコメントや両者でのディスカッションを通じて、学生が理解を深めていきます。学生が自ら疑問を持ち、課題を見つけられるように本チェックリストをご活用ください。可能な限り、毎日ご確認ください。

クリニカル・クラークシップ方式で行う実習には、以下の3つの学習プロセスがあります。

- ・見学： 学生は CE から現在対象者に行われている作業療法の内容や目的などについて説明を受けながら臨床行為などを見学します。実際の臨床場面以外でも（例えば、カルテから情報収集など）、どのように行うのか解説を受けてやり方を学びます。
- ・模倣： **【前期】** 見学（解説）の経験をもとに、CE の手本を真似する仕方について、その場での指導を受けながら実際に取り組みます。実施上のポイントを押さえさせるようにご配慮ください。CE による方法とどこが違うのかを話し合って理解させてください。
【後期】 学生の実演に対して、できているところは認めて強化し、不足している視点や配慮を指摘して上達を促してください。必要だけの援助をし、徐々に手を引いていきます。
※前期と後期を明確に分ける必要はありません。目安として解説をご確認ください。
- ・実施： 学生が十分に模倣を重ねたうえで、CE の見守りのもとであれば、一般的な症例に対するその（見守り） 技能や評価のリスクを概ね把握したうえで行えるというレベルです。模倣の延長線上であり、CE の指導管理から独立して行うということではありません。

【クリニカル・クラークシップチェックリストの記入例】

チェック項目	見学 (解説) レ点記入	模倣 正の字 記入	実施 (見守り) 至った 日付
作業療法や作業療法士の役割について対象者(または家族)に説明する	☒ ☐		/
作業療法士の役割についてスタッフ(OT や他職種)または対象者に説明する	☒ ☐		/
組織の概要を述べる(OTS は CE や他のスタッフ訪問時の養成校教員に対して行う)	☒ ☒	正 T	/

記入例を以下に示します。

『見学（解説）』にレ点を記入：

チェック項目にある臨床場面を見学させ、実際のやり方のポイントや、対象者のどんな反応に注意しているのかを説明した場合に☒をする。その場合 CE と学生の間で実演したり学生の技能を確認することが望まれます。2 回程度の見学を経て模倣の段階に進むことが望ましいですが、この限りではありません。

『模倣』：正の字を記入：

【前期】 では、学生に CE の臨床場面を見た直後に同様の行為（動作・作業など）を学生に行わせます。

【後期】 では、学生がより上達できるように指導をお願いします。

『実施（見守り）』：見守りレベルになった日を記入：

学生が模倣の段階において経験を十分に重ねた後、CE の見守りのうえで、一般的な臨床技能（評価・治療）を経験させてください。学生には実施の報告を CE にさせ適宜フィードバックをお願いします。

※必ずしも全ての項目で『実施』に至る必要はありません。また、学生として行うべきでない臨床実践や不要な項目は CE の判断で制限をかけてください(例えば対象者や家族に疾患について説明するなど)。

— 精神科領域 —

Ver. 1.0

以下の項目は実習で学生(OTS)に経験してほしいことを列挙しました。作業療法士として必要なスキルを全て網羅できているわけではありません。臨床教育者(CE)が追加が必要と判断された場合、具体的事項を空欄に加筆の上、ご活用願います。

領域	チェック項目	説明を受けたらチェック
オリエンテーション	部門の概要や位置づけについて説明を受ける	☐
	部門のリスク管理の方法、事故発生・発見時の対応について説明を受ける	☐
	関連部門について説明を受ける	☐
	部門で取り組んでいるチームアプローチについて説明を受ける	☐
	ハラスメントの予防と相談先について説明を受ける	☐
		☐

領域		チェック項目	見学 (解説) し点記入	模倣 正の字 記入	実施 (見守り) 至った 日付
作業療法士としての基礎	知識	作業療法や作業療法士の役割について対象者(または家族)に説明する	☐ ☐		/
		作業療法士の役割についてスタッフ(OTや他職種)または対象者に説明する	☐ ☐		/
		組織の概要を述べる(OTSはCEや他のスタッフ訪問時の養成校教員に対して行う)	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	態度	接遇やマナーを守り、自ら挨拶など積極的に行う	☐ ☐		/
		スタッフと良好な関係を築く	☐ ☐		/
		対象者や家族の話を傾聴する	☐ ☐		/
		疑問点を自ら見つけ、解決しようと努力する	☐ ☐		/
		自己学習を行うべき内容を考え、実践して知識を補う	☐ ☐		/
		OT室(事務所など)の日常業務(整理整頓・物品管理含む)に携わる行動をとる	☐ ☐		/
		CEに積極的に報告・連絡・相談を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	技能	管理・運営の流れに従って行動する	☐ ☐		/
		必要な事項を記録する	☐ ☐		/
		申し送りやカンファレンスに参加する	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
作業療法評価・治療	情報収集 技能	カルテから現病歴、既往歴など必要な情報を得る	☐ ☐		/
		カルテから服薬情報など必要な情報を得て主効果・副作用などを調べる	☐ ☐		/
		カルテから検査データ(心理検査など)など必要な情報を得る	☐ ☐		/
		他職種からの情報収集ができる	☐ ☐		/
		医師	☐ ☐		/
		☐ Ns ☐ PSW ☐ 臨床心理士(公認心理師) ☐ 薬剤師 ☐ ケアワーカー系職種	☐ ☐		/
		☐ 同部門のOTR ☐ その他の部門()	☐ ☐		/
作業療法評価・治療	情報収集 技能	対象者自身から情報収集する	☐ ☐		/
		対象者家族から情報収集する	☐ ☐		/
		治療者間の異なる意見や対立する意見を経験し作業療法士としての臨床的な合理的判断(クリニカルリーズニング)を経験する	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	リスク管理 知識	疾患によるリスクを理解し他者に説明する	☐ ☐		/
		リスク管理に必要な評価項目を列挙する	☐ ☐		/
		服薬の効用・副作用について他者に説明する	☐ ☐		/
		作業療法中断・中止のおおよその基準について他者に説明する	☐ ☐		/
		離院のリスクや入院形態、鍵の管理の重要性について理解し説明する	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	技能	危険物品(刃物・鋭利物品、鈍器類、紐類等)の危険性と管理方法を理解し説明する	☐ ☐		/
		精神症状およびその変化を把握する	☐ ☐		/
			☐ ☐		/

領域		チェック項目	見学 (解説) し点記入	模倣 正の字 記入	実施 (見守り) 至った 日付
作業療法評価・治療	観察 技能	関与(参加)観察を行う	☐ ☐		/
		非関与(非参加)観察を行う	☐ ☐		
		言語・非言語問わず、対象者の情動表出(反応)や態度の観察を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	面接 技能	フォーマルな面接を行う	☐ ☐		/
		作業面接を行う	☐ ☐		/
		インフォーマルな非構造化面接を行う	☐ ☐		
		面接時の対象者の情動表出(反応)や態度について評価を行う	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	評価尺度の活用 技能	評価表を活用する	☐ ☐		/
		評価結果について統合と解釈を行う	☐ ☐		/
		社会機能評価・全般的評価 ☐ GAF ☐ SOFAS ☐ LASMI ☐ REHAB ☐ SFS ☐ 精神障害者ケアアセスメント ☐ ISDA ☐ SMSF ☐ ACIS ☐ OSA-II ☐ COPM ☐ NPI ☐ その他()	☐ ☐		/
		精神症状評価 ☐ BPRS ☐ PANSS ☐ SANS ☐ HAM-D ☐ SDS ☐ HRS ☐ YMRS ☐ その他()	☐ ☐		/
		不安障害評価 ☐ HAM-A ☐ その他()	☐ ☐		/
		認知機能評価 ☐ BACS-J ☐ MCCB ☐ その他()	☐ ☐		/
		QOL評価 ☐ QLS ☐ その他()	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	環境因子 技能	家族構成・家庭環境を評価する	☐ ☐		/
		社会資源について評価する	☐ ☐		/
		経済状況について評価する	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	個人因子 技能	デマンドやニーズ・性格・趣味・興味を知る	☐ ☐		/
		生活歴(成育歴・学歴・職歴など)を知る	☐ ☐		/
		現在の役割を知る	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	活動と参加	退院支援	退院などに関するデマンドやニーズを知る	☐ ☐	/
			退院などへの思いを評価し、動機を高める	☐ ☐	/
			退院などに向けたケア会議に参加する	☐ ☐	/
				☐ ☐	/
		地域生活支援	生活の基盤を評価する	☐ ☐	/
			生活のスタイルを評価し、支援する	☐ ☐	/
			生活を充実させるために必要な要素を評価し、支援する	☐ ☐	/
				☐ ☐	/
		就労支援(就学)	働くことや就労への思いを評価し、動機を高める	☐ ☐	/
			仕事と生活のバランス(ストレスとの付き合い方)を評価し、整備する	☐ ☐	/
			職場の環境を評価する	☐ ☐	/
			就労準備性を評価する	☐ ☐	/
			※就学の場合は就労を就学に読み替えます	☐ ☐	/
				☐ ☐	/

領域		チェック項目	見学 (解説) し点記入	模倣 正の字 記入	実施 (見守り) 至った 日付
作業療法評価・治療	活動と参加	生きがい支援			
		主観的QOL(価値観・最も大事にしていること・興味など)を評価し、支援する	☐ ☐		/
		意志決定に関する能力を評価し、支援する	☐ ☐		/
		コミュニケーションの理解と表出に関して評価し、支援する	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
		集団活動を実施する	☐ ☐		/
		心理教育プログラムを実施する	☐ ☐		/
		レクリエーションを実施する	☐ ☐		/
	支援技術	その他()	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
	心身機能・身体構造	知識			
		精神科作業療法における心身機能の評価の意味を述べる	☐ ☐		/
			☐ ☐		/
		精神機能の状況を把握する(全般的精神機能)	☐ ☐		/
		☐ 意識 ☐ 見当識 ☐ 知的 ☐ 心理社会的 ☐ 気質と人格 ☐ 活力と欲動	☐ ☐		/
		☐ 睡眠 ☐ その他()			
		精神機能の状況を把握する(個別的精神機能)	☐ ☐		/
		☐ 注意 ☐ 記憶 ☐ 精神運動 ☐ 情動 ☐ 知覚 ☐ 思考 ☐ 言語			
		☐ 高次認知 ☐ 計算 ☐ 実行機能 ☐ 自己と時間	☐ ☐		/
		☐ その他()			
			☐ ☐		/
		回復状態を把握する	☐ ☐		/
		☐ 急性期 ☐ 亜急性期 ☐ 回復期前期 ☐ 回復期後期 ☐ 維持期	☐ ☐		/
		☐ 終末期 ☐ その他()			
			☐ ☐		/
	各種治療技術	認知機能に関する治療	☐ ☐		/
		☐ NEAR ☐ VCAT-J ☐ MCT ☐ SCIT ☐ 脳トレ	☐ ☐		/
		認知行動療法	☐ ☐		/
		☐ リラクセーション法 ☐ アサーション ☐ 暴露反応妨害法 ☐ マインドフルネス	☐ ☐		/
		☐ MBOT ☐ SST ☐ IMR ☐ その他()			
			☐ ☐		/
	評価の解釈	技能			
		ICFを用いて障害像の統合と解釈を行う	☐ ☐		/
		模擬カルテを記載する	☐ ☐		/
		対象者の状態変化に応じたプログラム・介入方針の変更を行う	☐ ☐		/
		長期目標を立てる	☐ ☐		/
		短期目標を立てる	☐ ☐		/
		目標の優先順位をつけをする	☐ ☐		/
		OT介入に関する報告を行う	☐ ☐		/
		その他()	☐ ☐		/
			☐ ☐		/